岡崎市北部地域交流センター　情報誌

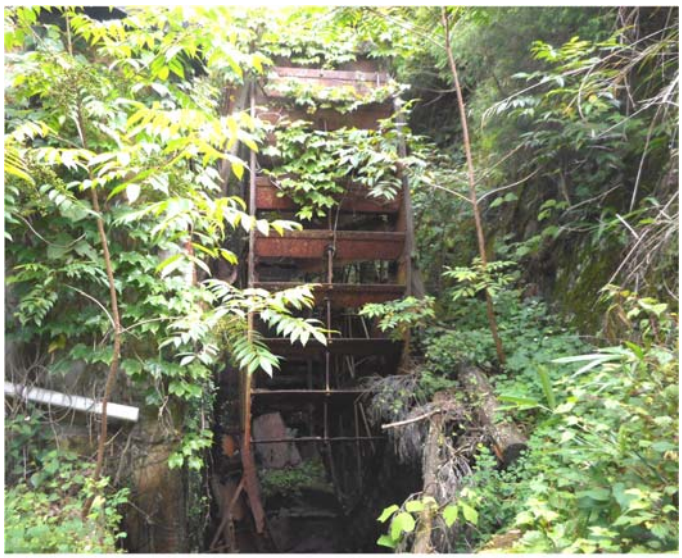
# なごみん

vol. 192
2021.9
岡崎市北部地域交流センター・なごみん

## わが町の人物紹介　第124回

# 「私が最後」ふるさと川向とガラ紡（ぼう）への思い

▲ 中根豊三商店川向工場
工場長　**山本　博** さん



▲ 当時使われていたガラ紡の水車、現在は役目を終えてひっそりと佇む

今月は、奥殿学区の川向町で繊維業に長年携わっている山本博さんを紹介します。

山本さんは昭和20年生まれ、川向町出身。18歳で中根豊三商店本社に就職しました。入社当時の山本さんは、裁断くずや古着から再生して作った綿をトラックに積み込んで羽根の駅（現JR岡崎駅）まで行き、貨物列車に積みかえて全国の布団屋に出荷する仕事をしていました。昭和46年には、同社川向工場の工場長になりました。山本さんの工場では、耐久性のある金属製の水車（上写真）を創業当初から使用し、郡界川の豊富な水を利用して、紡績機を休みなく動かして再生綿を製造していました。この紡績機は、動かすとガラガラと大きな音が出るためガラ紡績機、略してガラ紡と言われていました。

山本さんは「最盛期には8軒ものガラ紡工場がこの町にあり、全国から多くの女性労働者が集まってきて住み込みで働いていました。道路を通行止めにして盆踊り大会を開催したり神社の境内で映画観賞会をしたりと、とても賑やかで楽しかった。」と、懐かしそうに話してくれました。しかし、昭和50年代から、繊維業界の衰退とともに川向町のガラ紡工場も激減し、現在では山本さんの工場一軒を残すだけとなり、60軒あった民家もわずか15軒に減ってしまいました。

「私が最後です。だけど、私の代で繊維の町川向の歴史を終わらせたくない」と、繊維業一筋で生きてきた山本さんは言います。ガラ紡に何ができるのか、趣味や芸術の世界で生き残れる道はないのかなど、ふるさと『ガラ紡の町川向』への思いは尽きません。

# 10月募集開始の催し案内

## ◆まち育てスクール「変わりゆく岩津の町」

ガイドボランティアとともに現存する歴史的景観や過去の名残を見て回り、薄れていく過去の記憶を未来につなげるまち歩き企画を開催します。

日 時 ：令和3年11月13日（土）
時 間 ：9:00～12:00
講 師 ：市民活動団体「岩津松平氏輝きの600年」推進懇話会をはじめ、岩津に詳しい方々
場 所 ：岩津の町、岩津城址、信光明寺、円福寺
定 員 ：20名（先着順）
申 込 ：10月12日（火）～11月12日（金）
なごみん窓口・電話・FAXのいずれかで事前申込
参加費：無料

▲ 昭和の岩津

▲ 前回の様子

# なごみんからのお知らせ

### ●作品展示

**✿ 岡崎華道連盟**

場 所：1階待合スペース
内 容：いけばな展示

### ●更新のお知らせ

◆市民活動団体紹介パネルを撤去します

1階待合スペースに展示中の市民活動団体紹介パネルを情報更新のため9月末で一旦全て撤去します。
継続して掲示をご希望の団体には新しい様式をお渡しするのでお申し出ください。様式は紙またはデータのいずれかでお渡しします。
この取り組みは皆さんの活動を広く来館者に知ってもらう良いチャンスです。ぜひご活用ください。（作りたいけど作り方が分からないという方は一度ご相談ください）

### ●Pick Up!!

**新任紹介**

**新しいスタッフが加わりました**

7月1日より、スタッフに加わりました、吉岡と申します。年嵩の新人ではありますが気軽にお声がけ、ご指導を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

### ●最新の情報をチェック

新型コロナウイルスの動向により、活動室やプレイルーム、交流スペース等の運用を適宜見直します。なごみんのホームページで最新情報をご確認ください。

▼なごみんHPはコチラ

情報誌「なごみん」 ＞＞＞地域の情報、まちづくりに関する情報をお寄せください。

編集・発行 ：岡崎市北部地域交流センター・なごみん
所 在 地 ：岡崎市西蔵前町字季平45番地1
電 話 ：0564-66-8251 FAX：0564-45-1521
メ ー ル ：nagomin@m3.catvmics.ne.jp

開 館 時 間： 9:00～21:00
休 館 日 ： 月曜日（祝日の場合は翌日）、12/29～1/3
発行責任者：（指定管理者） 特定非営利活動法人 岡崎まち育てセンター・いた